

1. 第3次総合計画における施策の体系

目指す都市像 (政策)	番号	7	名称	快適な生活を育むまち			
施策	番号	3	名称	安全で快適な道路の整備			
主担当部	まちづくり部		主担当課	道路河川課		部長名	橋本 清秀
関係部			関係課	建設管理課			

2. 施策の基本方針(第3次総合計画の基本方針をもとに記入する)

この施策の目的	歩行者の安全確保のため、地元自治会と協力しながら、狭あい道路の整備や歩道の整備に努める。又災害時の緊急輸送路確保のため、橋梁の老朽化対策等維持管理に努める。
---------	--

3. 施策の現状分析(第3次総合計画の現状と課題をもとに記入する)

この施策の概況	この施策に対する市民ニーズなど、 具体的な事項について	社会環境や国・県の動向など、 施策を取り巻く環境について
	道路は、市民の日常生活と密接に関連した基盤施設であり、安全で快適な維持管理が求められ、計画的な整備が必要である。	誰もが安全に移動できる道路の整備、橋梁の長寿命化対策を引き続き推進することが求められているとともに、ユニバーサルデザインの観点から、すべての人が安全で安心して利用できる空間の整備に取り組むことが重要である。
これまでの成果	道路改良・歩道空間の整備・橋梁整備等の事業の実施に伴い、着実に成果を挙げている。	

4. 指標及びコストの推移

	名称及び単位等	28年度	29年度		30年度	備考欄	
		実績	目標	実績	目標		
指標の推移	施策指標① (成果指標)	道路改良率	67.52%	67.50%	67.67	67.80%	
	施策指標② (成果指標)	街路(今井地区)整備率	95.92%	100%	97.56	99.70%	
	施策指標③ (成果指標)	主要橋梁補修率	9.89%	13.00%	10.99	12.10%	
	施策指標④ (成果指標)						
	施策指標⑤ (成果指標)						
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算	
	歳出 (直接事業費)(a)		936,045	987,486	1,005,067	859,748	
	歳入 (b)	受益者負担額	46,822	50,787	50,508	50,607	
		受益者負担額以外の歳入(補助金等)	316,101	572,296	511,920	389,423	
	(a)-(b)=一般財源		573,122	364,403	442,639	419,718	
	正職員	従事者数 (単位:人)	21.30	21.40	20.40	21.80	
		人件費(c)	121,559	122,130	118,585	126,723	
トータルコスト (a)+(c)		1,057,604	1,109,616	1,123,652	986,471		

5. 施策の評価

有効性の評価	この施策の成果の達成度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	成果向上の可能性はどうか	1	1 十分ある	2 ある程度ある	3 あまりない	4 ない
	説明	道路改良率の達成度はやや高いが、日常生活における移動の利便性・安全性を確保するうえで、なおいっそうの道路空間の整備が求められている。そういう点で、今後成果が向上する可能性は十分あるといえる。				
	市政全般に対する貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	説明	道路は、市民生活に密着した事業であり、今後においても貢献度は非常に高いといえる。				

6. 施策の課題

この施策の課題	防災・安全の観点から、災害に強い道路空間の整備・維持修繕を図りながら、少ない費用で効果を発揮できるよう努めなければならない。
---------	--

7. 次年度以降の施策の方向性

総合評価 1次評価	次年度以降の方向性	1	1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明	道路は、市民生活を支える根幹的施設である。又災害時の緊急輸送路を確保するうえでも、改良工事及び維持管理を継続していく必要がある。又職員を増員し、施策を強化する必要もある。			
総合評価 2次評価	次年度以降の方向性		1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明				

8. 構成事業の方向性（それぞれの事務事業における今後の最適手段を検証する）

1次評価	説明	社会資本総合交付金事業にのつとった道路の整備や、地元からの要望による整備等廃止・縮小する事業は無い。
2次評価	説明	

9. 施策を構成するそれぞれの事務事業の評価

この施策に関する事務事業評価の内容(評価内容の転記)								施策評価			戦 略	大 綱
No.	課名、事務事業名 及び事業種別	事業の内容	事業の方向性及び H29決算額		貢 献 度	方 向 性	優 先 度 (ソフト任意)					
1	建設管理課	5年に1回の割合で橋梁等の点検を行い、結果に基づき、計画的に補修等の 工事を行う。 (ハード)	1	継続する	a	継続する						
	橋梁維持補修事業		158,031 (千円)									
2	建設管理課	研修会・協議会への参加手続き及び負担金支出 アルバイト雇用手続き及び賃金等の支出 その他事務全般 (内部管理・維持管理)	2	現状のまま継続	a	見直しな がら続け る						
	建設管理課総務事業 費		662 (千円)									
3	建設管理課	市道における歩道整備工事と防護柵・区画線設置また歩車道の段差解消の ためバリアフリー工事を行う。 (ハード)	1	継続する	a	継続する						
	交通安全施設整備事 業		33,925 (千円)									
4	建設管理課	市道路及び里道水路をはじめとする行政財産について、道路法等の関係法 令により適切な管理を行う事を基本とする。具体的には、道路法及び地方自 治法、または榎原市法定外公共物管理条例に基づき各種申請の審査等を行 う許認可業務、または境界明示申請に対する境界確定業務の実施、そして、 都市計画法による開発指導、及び市道路台帳整備を確実に実施する。 (ソフト(義務))	1	拡大する	a	拡大する						
	行政財産管理業務		14,741 (千円)									
5	建設管理課	榎原市道路区域内に残存する個人登記名義の土地について、利害関係人に 対し榎原市へ名義変更をすることに協力、理解を求め登記処理を行う。 (ソフト(義務))	1	拡大する	a	拡大する						
	市道路未登記処理業 務		6,415 (千円)									
6	建設管理課	それぞれの公共施設において、清掃・植栽管理・照明等の維持管理を行い、 良好な状態に保つ。 (内部管理・維持管理)	2	現状のまま継続	a	見直しな がら続け る						
	地下歩道・歩道橋・駅 前広場維持管理事業		82,495 (千円)									
7	建設管理課	道路(市道・里道)において、舗装工事・擁壁設置工事等の整備工事を行う。 (ハード)	1	継続する	a	継続する						
	道路維持管理事業		231,021 (千円)									
8	道路河川課	各会(南阪奈道路整備促進期成同盟会、奈良県国道連絡会)の事務局とし て、事務担当者会議、理事会、総会、視察研修、要望活動等の事業を実施す る。これらの事業実施に伴い、国・県等関係機関との連絡調整、調査、報告、 会費の徴収、会予算の経理事務等を行う。 奈良県国道連絡会の上部組織である近畿国道協議会については、活動に積 極的に参加するとともに、奈良県国道連絡会事務局として会員市町村への案 内、出欠とりまとめ等の事務を行う。 (ソフト(任意))	2	現状のまま継続	a	見直しな がら続け る	B					
	加盟団体運営事業		158 (千円)									

※下記評価の解説

- ・貢献度－事務事業評価の結果をもとに、この施策での貢献度(重要度)を絶対評価で示しています。
(a: 不可欠かつ施策の中核をなす事業、b: 不可欠な事業、c: 不可欠ではないが実施が望ましい事業、d: あまり有効ではない事業)
- ・方向性－事務事業評価の結果をもとに、この施策からみた各事務事業の今後の方向性を絶対評価で示しています。
(拡大する、見直しながら続ける、縮小する、廃止又は休止する、完了する)
- ・優先度(ソフト事業(任意)のみ)－施策内での事務事業の優先度を相対評価で示しています。
(優先度が高い順に A、B、C、D)

この施策に関連する事務事業評価の内容(評価内容の転記)				施策評価			戦 略	大 綱
No.	課名、事務事業名 及び事業種別	事業の内容	事業の方向性及び H29決算額	貢 献 度	方 向 性	優 先 度 (ソフト任意)		
9	道路河川課	畝傍駅前通り線:事業認可区間 L=712m W=12~16m 事業期間 平成3年度~平成31年度 事業費 2,709百万円 今井五井線:事業認可区間 L=317.5m W=16~19m 事業期間 平成8年度~平成30年度 事業費 1,500百万円	1 継続する	a	継続する			
	街路事業 (ハード)		159,672 (千円)					
10	道路河川課	・京奈和自動車道の事業推進に向けての地元調整と地元要望に関する関係 機関との調整業務 ・国道24号歩道拡幅事業(新賀南~四条町)推進に向け、関係機関との計画・ 事業調整業務 ・橿原市主体で策定した『みち再生事業計画』のうち奈良県が担当する県道大 和八木停車場線の事業推進に向け、関係機関との調整業務 ・JR畝傍駅周辺の国道165号整備事業による歩道整備及び道路の拡幅の事 業推進に向け、関係機関との調整業務	2 現状のまま継続	a	見直しな がら続け る	C		
	国・県実施の推進支援 事業 (ソフト(任意))		163 (千円)					
11	道路河川課	道路がまだ整備されていない地域および、既存の道路(市道)について、地元 要望、予算関係等に鑑みながら、計画的に道路の拡幅、延長等を行っていく。	1 継続する	a	継続する		○	
	道路新設改良事業 (ハード)		317,784 (千円)					

事務事業評価表（平成29年度実施事業対象）

（作成日：平成30年 6月 1日）

事業の種類を選択してください。⇒ (ハード) 事業										
P L A N 計 画	事務事業名	橋梁維持補修事業								
	担当部名	まちづくり部		担当課名	建設管理課		課長名	砂田昌克		
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	7	快適な生活を育むまち						
		施策	3	安全で快適な道路の整備						
	総合戦略の 位置付け	基本目標								
		基本的方向								
	行革大綱の 位置付け	重点項目								
		項目								
		改革名								
	予算事業名	道路橋りょう管理事務費・橋りょう維持修繕料								
事業の開始年度	平成		年度	事業の終了予定年度	平成		年度			
対象										
事業の 目的	橋梁の長寿命化により、トータルコストの縮減や予算の平準化を図り、安定した修繕工事を実施することで、市民の安全で快適な生活環境を目指す。			事業の 内容説明 (全体計 画)	5年に1回の割合で橋梁等の点検を行い、結果に基づき、計画的に補修等の工事を行う。					
市の関与の 必要性を評 価してくだ さい	なぜ市が 関与して いるのか		1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業							
			2 市の関与について見直す余地のある事業（民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど）							
	説明									
	やめた 場合の 影響は		1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い				
D O 実 施	指標の 推移	名称及び単位等			28年度	29年度		30年度	31年度	
					実績	計画	実績	見込み	見込み	
	成果指標									
	活動指標①	橋梁維持修繕工事(設計委託等含)			4	6	6	17	17	
	活動指標②									
	コストの 推移 (単位： 千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算		
		歳出（直接事業費）(a)			262,093	145,700	158,031	158,500		
		歳入 (b)	受益者負担額							
			受益者負担額以外の歳入（補助金等）			103,867	97,185	82,883	86,900	
		(a) - (b) = 一般財源			158,226	48,515	75,148	71,600		
正職員		従事者数（単位：人）			1.55	1.55	1.55	2.10		
		人件費 (c)			8,846	8,846	9,010	12,207		
トータルコスト (a) + (c)			270,939	154,546	167,041	170,707				
単位当 りコスト	計算式等 () / ()									
備考										

CHECK	進捗状況	目標（計画）どおり 進んでいるか	2	1 予定通り	2 概ね予定通り	3 達成できていない	
			説明	点検結果により修繕及び補強の工事を実施			
評価	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか		1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください			1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない
			説明				
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。						
修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	1	1 継続する	2 見直す	3 廃止又は休止する	課内優先度	
			4 完了する				
		説明	当該事業は、市民の生命財産を守るために継続して行わなければならない事業である。また、今後事業の進捗を考えたとき、予算や従事者増員の検討が必要である。				

事務事業評価表（平成29年度実施事業対象）

（作成日：平成30年 6月 1日）

事業の種類を選択してください。⇒ (内部管理・維持管理) 事業										
P L A N 計 画	事務事業名	建設管理課総務事業費								
	担当部名	まちづくり部		担当課名	建設管理課		課長名	砂田昌克		
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	7	快適な生活を育むまち						
		施策	3	安全で快適な道路の整備						
	総合戦略の 位置付け	基本目標								
		基本的方向								
	行革大綱の 位置付け	重点項目								
		項目								
		改革名								
	予算事業名	土木管理事務費								
事業の開始年度	平成		年度	事業の終了予定年度	平成		年度			
対象	内部事業			事業の 内容説明	研修会・協議会への参加手続き及び負担金支出 アルバイト雇用手続き及び賃金等の支出 その他事務全般					
事業の 目的	課内業務全般を円滑に進める									
市 の 関 与 の 必 要 性 を 評 価 し て く だ さ い	なぜ市が 関与して いるのか		1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業							
			2 市の関与について見直す余地のある事業（民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど）							
	説明									
	やめた 場合の 影響は		1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い				
D O 実 施	指標の 推移	名称及び単位等			28年度	29年度		30年度	31年度	
					実績	計画	実績	見込み	見込み	
	成果指標									
	活動指標①									
	活動指標②									
	コストの 推移 (単位： 千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算		
		歳出（直接事業費）(a)			668	671	662	684		
		歳入 (b)	受益者負担額			146	134	151	136	
			受益者負担額以外の歳入（補助金等）							
		(a) - (b) = 一般財源			522	537	511	548		
正職員		従事者数（単位：人）			0.55	0.55	0.65	0.70		
		人件費 (c)			3,139	3,139	3,778	4,069		
トータルコスト (a) + (c)			3,807	3,810	4,440	4,753				
単位当 たり コスト	計算式等 () / ()									
備考										

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	1	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	研修会等への参加により、職員のスキルアップに繋がっている。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	職員の専門知識の向上に繋がっている。							
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください	1	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない				
		説明	業務を円滑に推進するため、これ以上の低減は厳しい状況である。							
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		コスト削減のため関連事業について効率的な維持管理手法を考えていく必要がある。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度			
説明			4 廃止又は休止する	5 完了する	事務の総合的な管理を推進するため、関係機関との連携強化に努めると共に、市民ニーズの高度化に伴い効率的な専門研修により求められる専門的知識・技能を修得する。					

事務事業評価表（平成29年度実施事業対象）

（作成日：平成30年 6月 1日）

事業の種類を選択してください。⇒ (ハード) 事業										
P L A N 計 画	事務事業名	交通安全施設整備事業								
	担当部名	まちづくり部		担当課名	建設管理課		課長名	砂田昌克		
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	7		快適な生活を育むまち					
		施策	3		安全で快適な道路の整備					
	総合戦略の 位置付け	基本目標								
		基本的方向								
	行革大綱の 位置付け	重点項目								
		項目								
		改革名								
	予算事業名	交通安全施設整備事業								
事業の開始年度	平成		年度	事業の終了予定年度	平成		年度			
対象										
事業の 目的	交通安全施設の整備工事を行い、安全性を高めることにより、快適な市民生活を目指す。また、児童が安全に利用できるよう通学路を整備する。			事業の 内容説明 (全体計 画)	市道における歩道整備工事と防護柵・区画線設置また歩車道の段差解消のためバリアフリー工事を行う。					
市の関与の 必要性を評 価してくだ さい	なぜ市が 関与して いるのか	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業								
		2 市の関与について見直す余地のある事業（民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど）								
	説明									
	やめた 場合の 影響は	1 非常に大きい		2 やや大きい		3 克服できる範囲内		4 ほとんど無い		
D O 実 施	指標の 推移	名称及び単位等			28年度	29年度		30年度	31年度	
					実績	計画	実績	見込み	見込み	
	成果指標									
	活動指標①	交通安全施設整備工事			1	5	3	2	2	
	活動指標②	カーブミラー新規設置			54	60	47	50	50	
	コストの 推移 (単位： 千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算		
		歳出（直接事業費）(a)			47,030	42,536	33,925	62,410		
		歳入 (b)	受益者負担額							
			受益者負担額以外の歳入（補助金等）			1,190		1,512		
		(a) - (b) = 一般財源			45,840	42,536	32,413	62,410		
正職員		従事者数（単位：人）			1.60	1.60	1.50	1.45		
		人件費 (c)			9,131	9,131	8,720	8,429		
トータルコスト (a) + (c)			56,161	51,667	42,645	70,839				
単位当 りコスト	計算式等 () / ()									
備考										

CHECK	進捗状況	目標（計画）どおり 進んでいるか	2	1 予定通り	2 概ね予定通り	3 達成できていない	
			説明	事業計画に基づき整備を行っている中で、緊急に安全対策を求められることも多く、当初の計画箇所通りに進めることが困難ではあるが、ほぼ予定通りの進捗状況である。			
評価	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか		1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		1	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない
			説明				
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。						
修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	1	1 継続する	2 見直す	3 廃止又は休止する	課内優先度	
			4 完了する				
		説明	交通弱者の安全確保のため交通安全対策は必要であり、地元からのニーズも高まっている。今後も計画的に安全対策を進め、市民の安全確保のため従事者の増員や予算の確保が必要である。				

事務事業評価表（平成29年度実施事業対象）

（作成日：平成30年 6月 1日）

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト(義務)) 事業										
P L A N 計 画	事務事業名	行政財産管理業務								
	担当部名	まちづくり部		担当課名	建設管理課		課長名	砂田昌克		
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	7	快適な生活を育むまち						
		施策	3	安全で快適な道路の整備						
	総合戦略の 位置付け	基本目標								
		基本的方向								
	行革大綱の 位置付け	重点項目								
		項目								
		改革名								
	予算事業名	道路橋りょう管理事務費								
事業の開始年度	平成		年度	事業の終了予定年度	平成		年度			
対象	橿原市道路			事業の 内容説明	市道路及び里道水路をはじめとする行政財産について、道路法等の関係法令により適切な管理を行う事を基本とする。具体的には、道路法及び地方自治法、または橿原市法定外公共物管理条例に基づき各種申請の審査等を行う許認可業務、または境界明示申請に対する境界確定業務の実施、そして、都市計画法による開発指導、及び市道路台帳整備を確実に実施する。					
事業の 目的	市道路及び里道水路をはじめとする行政財産を、関係法令等に基づき公有財産として適切に管理し、市民の安全で快適な生活の確保									
D O 実 施	妥当性 評価	なぜ市が 関与して いるのか	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業							
			2 市の関与について見直す余地のある事業（民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど）							
	市の関与の 必要性を評 価してくだ さい	説明								
		やめた 場合の 影響は	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い				
指 標 の 推 移	指標の 推移	名称及び単位等	28年度	29年度		30年度	31年度			
			実績	計画	実績	見込み	見込み			
	成果指標									
	活動指標①	年間明示立会件数	185	200	172	200	200			
	活動指標②	年間占用等申請件数	1,304	1,200	1,334	1,300	1,300			
	コストの 推移 (単位： 千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算			
		歳出（直接事業費）(a)		24,824	15,886	14,741	16,658			
		歳入 (b)	受益者負担額	46,676	50,653	50,357	50,471			
			受益者負担額以外の歳入（補助金等）							
		(a) - (b) = 一般財源		-21,852	-34,767	-35,616	-33,813			
正職員		従事者数（単位：人）	5.95	5.95	5.35	5.30				
		人件費 (c)	33,957	33,957	31,100	30,809				
トータルコスト (a) + (c)		58,781	49,843	45,841	47,467					
単位当 りコスト	計算式等 () / ()									
備考										

C H E C K	有効性 評価	現時点での 成果について	1	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出てい る	3 現時点では十分な成果 が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅 な改善が必要			
		説明	毎年一定件数の登記処理を完了している。登記処理を完了した市道路に隣接した住民については、銀行の融資を受けられる状況になった等、道路管理権確立以外の成果も向上している。							
	現時点での 有効性を評 価してくだ さい	上位施策 への貢献 度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	市道路そのものが市民の日常生活と密接に関連した基盤施設であるので、道路管理権の確立は、市民の生命財産保護に繋がる。							
評 価	効率性評価 内容や手法を見直すこと により、コストや時間の低 減が可能か評価してくだ さい	1	1 効率性が高く、これ以上 の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改 善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が 必要	4 効率性が低いが、改善が 見込めない				
		説明	登記処理が完了していない市道路について、かなりの路線数が残っているため経費削減の余地はない。							
A C T I O N	この事業について、今後、 具体的にどうすることによ り、どんな効果が期待でき るか記入してください。		未登記処理を完了することは、市道路区域内に私権の制限をはじめとする道路法の適用を受けるための権限確保が目的であり、道路管理者の管理権を確立することが必要である。また、個人登記名義について所有権そのものの移転に制限はないので、個人間の所有権移転登記は可能であり、これを防ぐことが目的である。							
修 正 行 動	この事業の今後の方向性 を、費用面も含めて記入 してください	1	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する			課内 優先度		
		説明	4 廃止又は休止する	5 完了する						
		説明	市道路敷地内に未登記物件が多数残存しているため、今後事業の進捗を考えたとき、予算や従事者増員の検討が必要である。							

事務事業評価表（平成29年度実施事業対象）

（作成日：平成30年 6月 1日）

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト(義務)) 事業											
P L A N 計 画	事務事業名	市道路未登記処理業務									
	担当部名	まちづくり部		担当課名	建設管理課		課長名	砂田昌克			
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	7	快適な生活を育むまち							
		施策	3	安全で快適な道路の整備							
	総合戦略の位置付け	基本目標									
		基本的方向									
	行革大綱の位置付け	重点項目									
		項目									
		改革名									
	予算事業名	道路橋りょう管理事務費									
事業の開始年度	平成		年度	事業の終了予定年度	平成		年度				
対象	橿原市道路			事業の内容説明	橿原市道路区域内に残存する個人登記名義の土地について、利害関係人に対し橿原市へ名義変更をすることに協力、理解を求め登記処理を行う。						
事業の目的	道路法に基づく市道路区域内に残存する個人登記名義の土地を橿原市名義に登記処理を行うことにより、道路管理権の確立と市道路の適切な財産管理の実現										
市 の 関 与 の 必 要 性 を 評 価 し て く だ さ い	なぜ市が関与しているのか		1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業								
			2 市の関与について見直す余地のある事業（民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど）								
	説明										
	やめた場合の影響は		1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い					
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等			28年度	29年度		30年度	31年度		
					実績	計画	実績	見込み	見込み		
	成果指標										
	活動指標①	未登記処理件数			26	50	18	30	30		
	活動指標②										
	コストの推移 (単位：千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算			
		歳出（直接事業費）(a)			11,145	7,265	6,415	8,257			
		歳入(b)	受益者負担額								
			受益者負担額以外の歳入（補助金等）								
		(a) - (b) = 一般財源			11,145	7,265	6,415	8,257			
正職員		従事者数（単位：人）			1.00	1.00	1.05	1.00			
		人件費(c)			5,707	5,707	6,104	5,813			
トータルコスト(a) + (c)			16,852	12,972	12,519	14,070					
単位当たりコスト	計算式等 () / ()										
備考											

CHECK 評価	有効性 評価	現時点での 成果について	1	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	毎年一定件数の登記処理を完了してきている。登記処理完了後の市道路近接住民については、銀行からの融資を受けられる状況になった等、道路管理権の確立以外の成果も向上している。							
	現時点での 有効性を評価してください	上位施策 への貢献 度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	道路管理権の確立は、市道路そのものが市民の日常生活と密接に関連した基盤施設であるので、市民の生命財産の保護にも繋がる。							
評価	効率性評価 内容や手法を見直すこと により、コストや時間の低 減が可能か評価してくださ い	1	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない				
		説明	登記処理が完了していない市道路については、かなりの路線数が残っているため経費削減の余地はない。							
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		市道路区域内の未登記処理を完了することは、道路法で求められている権限確保が目的であり道路管理者の管理権を確立することが必要である。（市道路区域内に私権の制限をはじめとする道路法の適用を受けるためには、権限の確保は法的に必要である。また、個人登記名義について所有権そのものの移転に制限はないために個人間の所有権移転登記は可能であり、これらを防ぐことが目的である。）							
	修正 行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	1	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内 優先度			
説明			4 廃止又は休止する	5 完了する	市内の市道路敷地内に未登記物件が多数残存しているため、今後事業の進捗を考えたときに予算や従事者増員の検討が必要である。					

事務事業評価表（平成29年度実施事業対象）

（作成日：平成30年 6月 1日）

事業の種類を選択してください。⇒ (内部管理・維持管理) 事業											
P L A N 計 画	事務事業名	地下歩道・歩道橋・駅前広場維持管理事業									
	担当部名	まちづくり部		担当課名	建設管理課		課長名	砂田昌克			
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	7	快適な生活を育むまち							
		施策	3	安全で快適な道路の整備							
	総合戦略の位置付け	基本目標									
		基本的方向									
	行革大綱の位置付け	重点項目									
		項目									
		改革名									
	予算事業名	道路維持管理費									
事業の開始年度	平成		年度	事業の終了予定年度	平成		年度				
対象	地下歩道・歩道橋・駅前広場等の公共施設			事業の内容説明	それぞれの公共施設において、清掃・植栽管理・照明等の維持管理を行い、良好な状態に保つ。						
事業の目的	地下歩道・歩道橋・駅前広場等の公共施設を適切に維持管理し、安全かつ清潔に保つことにより、市民の安全と快適な生活を目指す。										
市 の 関 与 の 必 要 性 を 評 価 し て く だ さ い	なぜ市が関与しているのか		1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業								
			2 市の関与について見直す余地のある事業（民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど）								
	説明										
	やめた場合の影響は		1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い					
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等			28年度	29年度		30年度	31年度		
					実績	計画	実績	見込み	見込み		
	成果指標										
	活動指標①	維持管理箇所			53	53	53	53	53		
	活動指標②										
	コストの推移 (単位：千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算			
		歳出（直接事業費）(a)			69,939	66,512	82,495	79,744			
		歳入(b)	受益者負担額								
			受益者負担額以外の歳入（補助金等）								
		(a) - (b) = 一般財源			69,939	66,512	82,495	79,744			
正職員		従事者数（単位：人）			1.80	1.80	1.80	1.20			
		人件費(c)			10,273	10,273	10,463	6,976			
トータルコスト(a) + (c)			80,212	76,785	92,958	86,720					
単位当たりコスト	計算式等 () / ()										
備考											

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	公共施設を良好に管理するため、適正に事務従事を遂行している。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	公共施設の安全確保のための維持管理費及び住環境の保全のため、必要不可欠な事業であり上位施策に貢献している。							
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください	1	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない				
		説明	限られた予算内で可能な限りの施設の保全管理を行っているので、費用の削減は難しい。							
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		管理を推進していくため、市民と協働できる事業を検討し、良好な維持管理を実現していく。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する			課内優先度	
説明			4 廃止又は休止する	5 完了する						
		説明	施設を良好に管理するため、今後とも適正に事務事業を執行していく。							

事務事業評価表（平成29年度実施事業対象）

（作成日：平成30年 6月 1日）

事業の種類を選択してください。⇒ (ハード) 事業											
P L A N 計 画	事務事業名	道路維持管理事業									
	担当部名	まちづくり部		担当課名	建設管理課		課長名	砂田昌克			
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	7	快適な生活を育むまち							
		施策	3	安全で快適な道路の整備							
	総合戦略の 位置付け	基本目標									
		基本的方向									
	行革大綱の 位置付け	重点項目									
		項目									
		改革名									
	予算事業名	道路維持管理費									
事業の開始年度	平成		年度	事業の終了予定年度	平成		年度				
対象				事業の 内容説明 (全体計 画)	道路（市道・里道）において、舗装工事・擁壁設置工事等の 整備工事を行う。						
事業の 目的	地元要望や道路パトロールにより適切な道路の維持管理を 行い、市民の安全で快適な生活環境を目指す。										
妥当性 評価	なぜ市が 関与して いるのか	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業									
		2 市の関与について見直す余地のある事業（民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズ が低下している等、社会情勢の変化によるものなど）									
	市の関与の 必要性を評 価してくだ さい	説明									
	やめた 場合の 影響は	説明	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い					
D O 実 施	指標の 推移	名称及び単位等			28年度	29年度		30年度	31年度		
					実績	計画	実績	見込み	見込み		
	成果指標										
	活動指標①	道路維持工事			35	53	36	57	57		
	活動指標②	市内一円パトロール巡回			4	4	4	4	4		
	コストの 推移 (単位： 千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算			
		歳出（直接事業費）(a)			230,155	204,071	231,021	201,044			
		歳入 (b)	受益者負担額								
			受益者負担額以外の歳入（補助金等）			8,744	22,000	8,361			
		(a) - (b) = 一般財源			221,411	182,071	222,660	201,044			
正職員		従事者数（単位：人）			3.40	3.40	3.60	4.40			
		人件費 (c)			19,404	19,404	20,927	25,577			
トータルコスト (a) + (c)			249,559	223,475	251,948	226,621					
単位当 りコスト	計算式等 () / ()										
備考											

CHECK	進捗状況	目標（計画）どおり 進んでいるか	2	1 予定通り	2 概ね予定通り	3 達成できていない	
			説明	事業計画に基づき整備を行っている中で、地元や関係機関等の調整に不測の期間を要している場所もあるが、ほぼ予定通りの進捗である。			
評価	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか		1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		1	効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない
			説明				
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。						
修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	1	1 継続する	2 見直す	3 廃止又は休止する	課内	
			4 完了する			優先度	
		説明	当該事業は、地元要望やパトロール等により、道路の劣化箇所等の整備を行い、市民の生命財産を守ることを目的としている。年々管理延長及び交通量の増加に伴い、維持管理事業は継続的に増加が見込まれるため、従事者の増員や予算の確保が必要である。				

事務事業評価表（平成29年度実施事業対象）

（作成日：平成30年5月25日）

事業の種類を選択してください。⇒		（ ソフト（任意） ）		事業				
P L A N	事務事業名	加盟団体運営事業						
	担当部名	まちづくり部	担当課名	道路河川課	課長名	西村 明		
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	7	快適な生活を育むまち				
		施策	3	安全で快適な道路の整備				
	総合戦略の位置付け	基本目標						
		基本的方向						
	行革大綱の位置付け	重点項目						
		項目						
		改革名						
	予算事業名	都市計画総務管理費						
事業の開始年度	昭和	59	年度	事業の終了予定年度	平成 - 年度			
対象	各会員市町村			事業の内容説明	各会（南阪奈道路整備促進期成同盟会、奈良県国道連絡会）の事務局として、事務担当者会議、理事会、総会、視察研修、要望活動等の事業を実施する。これらの事業実施に伴い、国・県等関係機関との連絡調整、調査、報告、会費の徴収、会予算の経理事務等を行う。 奈良県国道連絡会の上部組織である近畿国道協議会については、活動に積極的に参加するとともに、奈良県国道連絡会事務局として会員市町村への案内、出欠とりまとめ等の事務を行う。			
事業の目的	加盟団体規約目的達成のため、積極的に要望等の活動を推し進めることにより、安全で快適な道路網等の整備を促進することを目的とする。							
市の関与の必要性を評価してください	なぜ市が関与しているのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業					
		2	市の関与について見直す余地のある事業（民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど）					
	説明	広域的にわたる産業基盤の確立と経済の活性化並びに社会、文化の発展等、生活の安定向上を図るため。						
	やめた場合の影響は	1	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い		
説明	より快適な道路環境の実現、住民の安全確保ができなくなる。							
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等		28年度	29年度	30年度	31年度	
				実績	計画	実績	見込み	
	成果指標	事業参加割合(%)		100%	100%	100%	100%	
	活動指標①							
	活動指標②							
	コストの推移 (単位：千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算	
		歳出（直接事業費）(a)		206	221	158	231	
		歳入(b)	受益者負担額					
			受益者負担額以外の歳入（補助金等）					
		(a) - (b) = 一般財源		206	221	158	231	
正職員		従事者数（単位：人）		0.95	0.90	0.90	1.05	
		人件費(c)		5,422	5,136	5,232	6,104	
トータルコスト(a) + (c)		5,628	5,357	5,390	6,335			
単位当たりコスト	計算式等 () / ()							
備考								

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	1	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	各会の事業を積極的に実施、参加し、また、必要に応じて普段から会員相互の連携を図り、各会で要望活動を行ってきた事項の実現に寄与している。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	安全で快適な道路の整備に貢献している。							
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください	1	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない				
		説明	事務局としての人件費は最小の経費であり、会費も妥当である。会予算では合同で総会、研修を行うなど経費の節減に努め、事業を効率的に行っている。							
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		今後も安全で快適な道路網の整備に向け、会員相互及び関係機関との連携を図り、要望活動等を続けていく。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		A	
説明			4 廃止又は休止する							
		説明	5 完了する							
		説明	社会情勢の変化等に応じ、各会のより効果的な運営方法を検討しながら続けていく。							

事務事業評価表（平成29年度実施事業対象）

（作成日：平成30年5月25日）

事業の種類を選択してください。⇒		（		ハード		）		事業		
P L A N	事務事業名	街路事業								
	担当部名	まちづくり部		担当課名	道路河川課		課長名	西村 明		
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	7	快適な生活を育むまち						
		施策	3	安全で快適な道路の整備						
	総合戦略の位置付け	基本目標								
		基本的方向								
	行革大綱の位置付け	重点項目								
		項目								
		改革名								
	予算事業名	街路事業費								
事業の開始年度	平成	3	年度	事業の終了予定年度	平成	31	年度			
計画	対象				事業の内容説明 (全体計画)	畷傍駅前通り線：事業認可区間 L=712m W=12~16m 事業期間 平成3年度~平成31年度 事業費 2,709百万円 今井五井線：事業認可区間 L=317.5m W=16~19m 事業期間 平成8年度~平成30年度 事業費 1,500百万円				
	事業の目的	街路を整備することにより、伝統的建造物群保存地区「今井町」の環境保全及び住民の交通安全対策、利便性の向上を図る。また道路整備と併せて無電柱を実施し、景観向上に寄与し観光客数の増進を図る。(効果促進「交通広場整備」を含む)								
D O 実 施	妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業							
			2 市の関与について見直す余地のある事業（民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど）							
	市の関与の必要性を評価してください	説明								
		やめた場合の影響は	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い				
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等	28年度	29年度		30年度	31年度			
			実績	計画	実績	見込み	見込み			
	成果指標									
	活動指標①	畷傍駅通り線進捗率（累積事業実施費／総事業費）	94.9%	100%	96.9%	99.5%	100%			
	活動指標②	今井五井線進捗率（累積事業実施費／総事業費）	96.0%	100%	98.8%	100%	-			
	コストの推移 (単位：千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算			
		歳出（直接事業費）(a)		73,973	144,437	159,672	111,619			
		歳入(b)	受益者負担額							
			受益者負担額以外の歳入（補助金等）	53,539	130,900	141,266	98,613			
		(a) - (b) = 一般財源		20,434	13,537	18,406	13,006			
正職員		従事者数（単位：人）	1.75	1.90	1.50	1.90				
		人件費(c)	9,987	10,843	8,720	11,045				
トータルコスト (a) + (c)		83,960	155,280	168,392	122,664					
単位当たりコスト	計算式等 () / ()									
備考	進捗率は、整備事業の変更による									

CHECK	進捗状況	目標（計画）どおり 進んでいるか	2	1 予定通り	2 概ね予定通り	3 達成できていない	
			説明	厳しい経済情勢のなか、国の補助金についても要望通り交付金が受けられず、進捗状況は遅れ気味。			
評価	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか		1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください			1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない
			説明				
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。						
修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	1	1 継続する	2 見直す	3 廃止又は休止する	課内優先度	
			4 完了する				
		説明	事業用地の未買収地があり、鋭意交渉を重ね協力が得られるよう努めるとともに、市の財政状況を勘案しながら、事業補助金の確保に努力する。				

事務事業評価表（平成29年度実施事業対象）

（作成日：平成30年5月25日）

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト (任意)) 事業											
P L A N 計 画	事務事業名	国・県施行の推進支援事業									
	担当部名	まちづくり部		担当課名	道路河川課		課長名	西村 明			
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	7		快適な生活を育むまち						
		施策	3		安全で快適な道路の整備						
	総合戦略の位置付け	基本目標									
		基本的方向									
	行革大綱の位置付け	重点項目									
		項目									
		改革名									
	予算事業名	都市計画総務管理費									
事業の開始年度	平成	-		年度	事業の終了予定年度	平成	-		年度		
対象	京奈和自動車道事業、国道24号歩道拡幅事業、みち再生事業、JR畝傍駅周辺整備事業				事業の内容説明	・京奈和自動車道の事業推進に向けての地元調整と地元要望に関する関係機関との調整業務 ・国道24号歩道拡幅事業（新賀南～四条町）推進に向け、関係機関との計画・事業調整業務 ・橿原市主体で策定した『みち再生事業計画』のうち奈良県が担当する県道大和八木停車場線の事業推進に向け、関係機関との調整業務 ・JR畝傍駅周辺の国道165号整備事業による歩道整備及び道路の拡幅の事業推進に向け、関係機関との調整業務					
事業の目的	地元、市関係機関等の調整を行い、国・県事業の整備促進を図る。										
市の関与の必要性を評価してください	妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業							
			2	市の関与について見直す余地のある事業（民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど）							
	説明	国・県事業を円滑に進めていくためには、地元調整等において市の支援は欠かせない。									
	やめた場合の影響は	1	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い					
説明	国・県事業の整備促進に大きな影響を及ぼす。										
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等			28年度	29年度		30年度	31年度		
					実績	計画	実績	見込み	見込み		
	成果指標	-			-	-	-	-	-		
	活動指標①	-			-	-	-	-	-		
	活動指標②	-			-	-	-	-	-		
	コストの推移 (単位：千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算			
		歳出（直接事業費）(a)			161	221	163	200			
		歳入(b)	受益者負担額								
			受益者負担額以外の歳入（補助金等）								
		(a) - (b) = 一般財源			161	221	163	200			
正職員		従事者数（単位：人）			0.25	0.35	0.65	0.75			
		人件費(c)			1,427	1,997	3,778	4,360			
単位当たりコスト	トータルコスト (a) + (c)			1,588	2,218	3,941	4,560				
	計算式等 () / ()										
備考											

CHECK 評価	有効性 評価	現時点での 成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	行政として道路の整備、開通の実現に向け積極的に業務を遂行しており、地元長年の悲願に近づいている。							
	現時点での 有効性を評価してください	上位施策 への貢献 度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	都市の健全な発展と秩序ある整備を図ることになる。							
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない			
			説明	事務量からも十分に効率性は保たれており、コストを低減することは難しい。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		国・県道の整備促進においては、市が積極的に関与し、今までの経緯を踏まえ地元と関係機関との調整を密に図ることにより、事業の円滑な推進が図られ、整備促進に寄与する。							
	修正 行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内 優先度		B	
説明			国・県事業が円滑に進むよう、今後も、精力的に市が地元調整を行う必要がある。							

事務事業評価表（平成29年度実施事業対象）

（作成日：平成30年5月25日）

事業の種類を選択してください。⇒ (ハード) 事業										
P L A N	事務事業名	道路新設改良事業								
	担当部名	まちづくり部		担当課名	道路河川課		課長名	西村 明		
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	7	快適な生活を育むまち						
		施策	3	安全で快適な道路の整備						
	総合戦略の位置付け	基本目標	3-2-4	安心して便利に暮らせるまちをつくる						
		基本的方向	①	多極ネットワーク型のコンパクトなまちづくり						
	行革大綱の位置付け	重点項目								
		項目								
		改革名								
	予算事業名	道路新設改良事業費								
事業の開始年度	平成	—	年度	事業の終了予定年度	平成	—	年度			
計 画	対象									
	事業の目的	道路の新設・改良事業を行うことにより、安全・快適な道路環境を整備し、もって快適な市民生活を目指す。			事業の内容説明(全体計画)	道路がまだ整備されていない地域および、既存の道路（市道）について、地元要望、予算関係等に鑑みながら、計画的に道路の拡幅、延長等を行っていく。				
D O 実 施	妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業							
			2 市の関与について見直す余地のある事業（民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど）							
	市の関与の必要性を評価してください	説明								
		やめた場合の影響は	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い				
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等			28年度	29年度		30年度	31年度	/
					実績	計画	実績	見込み	見込み	
	成果指標									
	活動指標①	—			—	—	—	—	—	
	活動指標②	—			—	—	—	—	—	
	コストの推移 (単位：千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算		
		歳出（直接事業費）(a)			215,851	359,966	317,784	220,401		
		歳入(b)	受益者負担額							
			受益者負担額以外の歳入（補助金等）			148,761	322,211	277,898	203,910	
		(a) - (b) = 一般財源			67,090	37,755	39,886	16,491		
正職員		従事者数（単位：人）			2.50	2.40	1.85	1.95		
	人件費(c)			14,268	13,697	10,754	11,335			
トータルコスト(a) + (c)			230,119	373,663	328,538	231,736				
単位当たりコスト	計算式等 () / ()									
備考										

CHECK	進捗状況	目標（計画）どおり 進んでいるか	2	1 予定通り	2 概ね予定通り	3 達成できていない	
		説明	事業の実施に当たり、利害関係者との折衝があり、時に大きな遅れが生じる場合があるが、概ね予定通りに遂行している。				
評価	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか		1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
			説明				
	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない	
		説明					
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。						
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	1	1 継続する	2 見直す	3 廃止又は休止する	課内優先度
説明			4 完了する				
			市内の道路において、まだまだ快適な道路環境とは言えず、また、防災面から見ても改良すべき道路は多数存在する。このような状況からも、地元要望がなくなるとは考えられず、鋭意継続すべきである。				